

平谷村における 野生鳥獣被害対策

飯伊野生鳥獣被害対策チーム

鳥獣被害防止活動の取り組み

- 平成20年度
 - 「平谷村鳥獣被害防止計画」策定
 - 「みんなで進める里山集約化事業」→緩衝帯整備26ha
- 平成21年度
 - 「元気づくり支援金」でサル、イノシシ用捕獲檻購入
 - 電気柵設置のための集落ぐるみの現地検討会開催
- 平成22年度
 - 鳥獣被害防止総合支援事業(国庫)で、モンキードック事業の研究と京都大学方式猿害防止電気柵(モンキーショック)の導入ほか

H22年度の主な活動

- ・ モンキードック先進事例視察
 - 大町市(8/5)、南木曾町(9/24)
- ・ サル対策現地検討
 - 現地巡回による電気柵、トタン柵の設置状況確認(8/25)
- ・ モンキーショック導入活動
 - 事前研修会(8/10)、設置研修会(9/15)
- ・ ニホンザル生育状況確認
 - 群れと行動範囲を確認する発信機取り付け(11/18)
- ・ 追い払い活動支援
 - BB弾使用モデルガン(4丁)、スリングショット(4丁)導入
- ・ 森林整備活動
 - 緩衝帯整備0.5ha

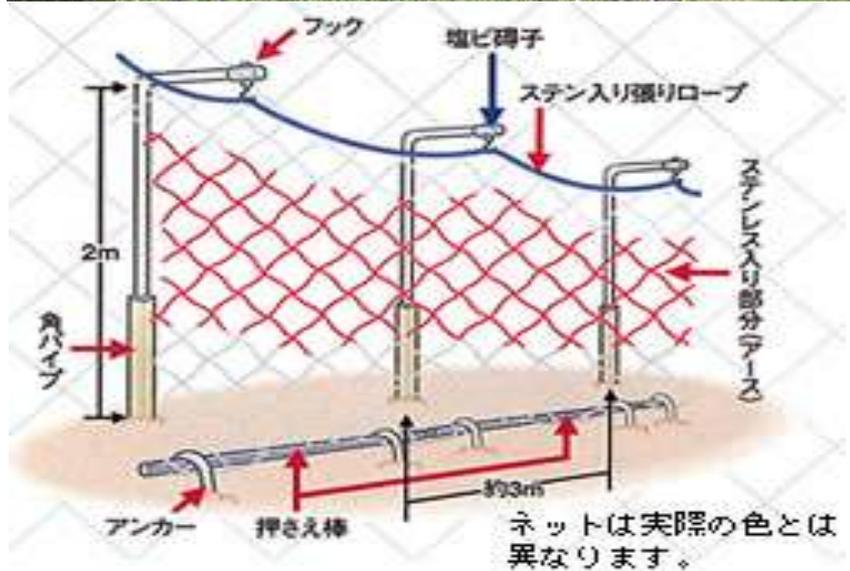
モンキードック視察研修



視察実施後の検討結果

- ・ 大町市の研修後の感想
 - ドックスクールの訓練が遠距離のため困難
- ・ 南木曾町の研修後の感想
 - ペットが主で、追い払いは従という取り組み方には共感
- ・ 研修後の検討
 - 村内を横断する国道153号線と、観光交流施設(道の駅・直売所)の存在が懸念され、導入にあたり課題が生まれた
- ・ 結論 現時点では導入困難

モンキーショックの導入



- 福井ファイバーテック(株)
- 京都大学方式猿害防止システム採用
- ステンレス鋼線入りネット部分に登ったサルが、上部のステンレス鋼線入り張りロープに触れた瞬間、高電圧に感電し、その「電気ショック」の学習から侵入意欲を消失させるシステム

モンキーショック設置研修会



モンキーショック設置後の反応

- ・ 作業方法は、難しくなく、理解できた。
- ・ 作業自体も、簡単だった。
- ・ 棚田のような中山間の小さい畑を複数枚囲わなければならぬことが多かったため、ネット方式には課題が残る。
- ・ 農閑期前の設置で、十分な成果についての実証はできていないが、設置後の被害はなかった。

- ・ 課題 単価が高い

追い払い活動の結果検討

- ・ BB弾使用モデルガンについて
 - 高齢者や女性でも簡単に操作できる
 - 本物そっくりなので、持ち歩くには抵抗がある
 - BB弾のコストが課題
- ・ スリングショット(丸ゴム、平ゴム)について
 - 飛距離は50mも可能で、有効
 - 上手になるまでに、訓練が必要
 - 石を飛ばすこともできるが、いざというときにはなかなか無い
 - 強力な丸ゴムは高齢者や女性には不向き
 - 扱いやすい平ゴムは、切れやすさと劣化が課題

次年度に残された課題

- モンキードックの導入検討
- モンキーショックの効果確認(トウモロコシ収穫期)
- 高齢者や女性でもできる追い払い活動の検討
- 群れの把握による科学的な対策の検討
- 電気柵、トタン柵の効果的な設置方法の習得
- 緩衝帯整備